

竜王中学校 学校関係者評価書

令和2年1月31日（金）

竜王中学校学校関係者評価委員会作成

令和元年度「学校関係者評価委員会」

実施日：令和2年1月31日（金）午後5時～

会 場：竜王中学校会議室

参加者：（学校関係者評価委員） 川口優一 中嶋正人 鈴木康司 小林里枝
高石一巳 金丸恵里 志村里美 岩崎由起子
（学校側） 今村弘樹 坂本公彦 廣瀬正昭 岡村勝幸
今野嘉昭 佐野公司 阿部勢津子

I 学校側から提案された内容

- ・令和元年度自己評価書
- ・令和元年度自己評価シート集計結果表（H29・H30と比較できるもの）
- ・令和元年度生徒用アンケート集計結果表（H29・H30と比較できるもの）
- ・令和元年度保護者アンケート集計結果表（H29・H30と比較できるもの）

II 協議された主な内容

- ・自己評価シート及び生徒アンケートの集計結果・保護者アンケート集計結果をもとに、学校の現状（成果と課題）や取り組み等について情報を共有・協議し、学校・家庭・地域の連携協力により学校運営の改善にあたる。

〈学校関係者評価書〉

I 全体評価

- ・今回のアンケート結果は、学校全体が着実により良い方向へ向かっていることが実感できるもので、生徒・保護者・教職員が一体となって行ってきた様々な取り組みの成果であるといえる。特に、校内研究を通して取り組んできた授業改善の取り組みや、現状を正確に把握したうえで、生徒指導上の課題に対し、生徒指導部会を中心に組織的な取り組みを継続的に行ってきたことが改善につながっている。今後もPDCAサイクルを確立したうえで、自己評価書をもとに改善策を具体的に実施し、更により良い教育活動が行われるよう、組織をあげて取り組んでいきたい。
- ・校門に立って挨拶運動を行っている、気持ちの良い挨拶が返ってくる。また生徒が校舎に向かって一礼する姿も見られるようになった。心を育てる竜王中教育の成果である。

II 特徴

○自己評価シートの集計結果から

- ・51の評価項目の内、49項目において、肯定的評価〔A（とてもそう思う）+B（そう思う）〕が80%を超えている。（H30より2項目、増えている。）
- ・51項目中、最頻値がAであるのは26項目だった。（H30より10項目、増えている。）
- ・否定的評価〔C（ややそう思わない）+D（そう思わない）〕の割合が比較的高かったもの

(20%を超えたもの)は、「特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている」と「あなたは教育活動の中に地域人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている」の2項目であった。

○生徒アンケートの集計結果から

- ・生徒アンケートの結果は昨年度同様、概ね肯定的な回答であった。特に、規範意識の向上やあいさつの習慣、思いやりの心などの項目については、毎年向上している。また学習に関しては、わからない事への質問や、授業中の発言や発表の項目が向上している。
- ・創甲斐教育の指標（A+Bの割合）との比較
 - 「人が困っているときは進んで助けていますか。」指標90% 本校94% (前年より+1)
 - 「国語の授業の内容はわかりますか。」指標80% 本校87% (前年平均比-4)
 - 「数学の授業の内容はわかりますか。」指標70% 本校84% (前年比平均-2)
 - 「将来の夢や希望を持っていますか。」指標80% 本校75% (前年比平均-2)
 - 「学校の決まりや約束ごとを守っていますか。」指標90% 本校98% (前年比平均+1)

○保護者アンケートの集計結果から

- ・保護者アンケートの結果は昨年度同様、概ね学校の教育活動に対し肯定的であった。
- ・様々な便りやホームページ、授業参観や学校開放日などを活用し、学校や生徒の様子を保護者・地域に積極的に発信していることや、学校が熱心に授業に取り組んでいることが評価されている。一方、家庭での自主学習が十分に行われていないと考える保護者の割合が増加している。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・わかる授業、学ぶことの楽しさを知る授業を目指していることが理解できる。今後は保護者に対し、学校が様々な工夫や授業改善を実施していることを理解してもらえるよう丁寧に説明し、学校と保護者が連携して子どもたちの学びを支える仕組みづくりが必要である。また学園祭や合唱祭などの行事だけではなく、通常の授業参観への保護者の出席率を高めてもらいたい。
- ・道徳の授業実践では、同じ教材を利用しながらも、それぞれの担任教師が生徒の実態に合わせて工夫した授業展開を行っている様子があり、素晴らしいと感じた。一方で、生徒の発言が表現力不足により、良い発言内容であるにもかかわらず、教室全体に共有されていない場面がみられた。今後は、子どもたちの表現力やコミュニケーション力を高める指導の充実を図ってほしい。
- ・スマホ所持率と使用時間は年々増加していて、スマホ依存は深刻な社会問題になっている。子どもたちへの指導はもちろん、家庭内でスマホ利用の約束事を交わすなど、保護者への情報提供や啓発を積極的に行っていく必要がある。
- ・子どもが帰ってくると、楽しそうに学校の話をしてくれる。これからも、生徒の実態を的確に把握し、よりよい学校づくりに励んでほしい。

記載責任者 (竜王中学校学校関係者評価委員長) 氏名: 川口優一 印

